



薬学部だより

Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokushima University

薬学部

徳島大学薬学部
July 2024

Vol. 34

巻頭言

■アフターコロナの薬学部



徳島大学薬学部長

土屋浩一郎

Tsuchiya Koichiro

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行して1年が過ぎましたが、かつて感染対策としてそこかしこに置かれたパーティションやサーモグラフィはその役割を終え、また出入り口の目立つところに置かれていた消毒用アルコールのボトルも見かけることが少なくなりました。

2年前の2022年の薬学部だより30号にはコロナ後のことを予測した文章を書かせていただきましたが、実際にアフターコロナとなった今、薬学部を取り巻く環境について再度述べてみたいと思います。

コロナ禍を経て一番大きく代わったのは、学生を含めた人々の価値観の変化と思っています。働き方改革の法律はコロナ禍の直前の2018年に成立していましたが、当時は実際の効果や具体的な実施に対する懸念も根強くあ

り、半信半疑なところもありました。しかしコロナ禍の発生により、大学のほか多くの企業がリモートによる対応を余儀なくされ、対面での授業や会議が減少しオンライン授業・会議に置き換えられたこと、長時間労働や長時間通勤の強制的な停止もありました。

これらが複数年続いたことにより、それまでの昭和的な価値観からの脱却が大いに進んだ時代だと感じています。

私は毎朝、徳大薬学部前交差点を通過して通勤しているのですが、かつては真夜中、また土日でも薬学部棟のほとんどの研究室には誰かが居るのが日常の風景でした。夜遅くに薬学部棟を見上げると窓に明かりが煌々と灯り、活動している雰囲気が伝わってきたものでした。しかし現在は夜遅くになるとほとんどの窓の明かりが消え、静かに翌朝を待つ佇まいを見せています。

それでいて、研究についてはコロナ禍前とほぼ変わらない、むしろそれ以上の成果を上げています。これは、限られた時間内で最大の成果を上げる、時間の使い方の新しい意識が芽生えてきたものだと考えています。

教育についても、パンデミックは社会のデジタル化を急速に進める要因となりました。紙媒体は減少するとともに、BYOD (Bring Your Own Device) によって従来の対面に加えてリモート学習、教育のデジタル化と

いう学習環境の多様性がもたらされました。

さらに、近年話題の生成AIの急激な進化も、このコロナ禍を背景に加速度的に進みました。

生成AIは薬学分野においても様々な場面で、間違いなくその活用が広がっていくことと思います。

しかしながら生成AIを使うのはあくまで人であることから、生成AIの出した内容を盲信することなく、批判的な解釈を行う意識をもって生成AIを利活用することは大変重要であり、そのためにも、本学部で受け継がれている研究マインド醸成教育は、今後なお一層重要性を増すことになると思います。

そして令和5年12月末、政府は新型コロナウイルスのパンデミックを通じて医薬品の迅速な供給と国内創薬力の強化を行うことを目指して「創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議」を立ち上げました。この会議では、国内創薬力の強化を通じて日本を「創薬の地」にすることを目的に、基礎研究の蓄積と応用研究の進展が目標の1つに掲げられました。アフターコロナ時代を迎えた今、私たち本学部もこの機会を捉え、創薬力という本学部の強みを活かして、この課題に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

先導的薬剤師育成コース長より



薬学科長
先導的薬剤師育成コース長

石田 竜弘

Ishida Tatsuhiro

先導的薬剤師育成コース長（薬学科長）の石田竜弘です。令和3年度入学生より「薬剤師資格を基盤とする薬学部新6年制課程」に移行し、薬学部の理念である「インタラクティブ YAKUGAKUJIN」の養成を推し進

めています。高度な研究や先端的な治療法がわかり、リーダーとして活躍できる薬剤師の輩出を目指し設置されたのが「先導的薬剤師育成コース（定員50名）」です。このコースは、研究実践能力を備えた薬剤師として先進医療分野に創造的な取組ができる人材の育成を目指した「研究型高度医療薬剤師プログラム（定員40名）」と、研究実践能力を備えた薬剤師として地域医療分野に創造的な取組ができる人材の育成を目指した「研究型高度医療薬剤師プログラム（定員10名（学校推薦型選抜Ⅱ合格者5名含む）」からなっています。本年度、第一期生（4年生）が5年次の実務実習に向け CBT（Computer Based Testing）および OSCE（客観的臨床能力試験）を受験

します。これまでの学びの成果を十分に発揮してほしいと考えています。薬学部では3年次進級時のプログラム選択に役立つ、多彩かつ特徴的な講義や実習を用意していますので、1、2年生は主体的に取り組み、今後の進路を選択してってください。



創製薬科学研究者育成コース長より



創製薬科学科長
創製薬科学研究者育成コース長

小暮 健太郎

Kogure Kentaro

創製薬科学研究者育成コース長の小暮健太郎です。このコースは、「医療を理解し、創薬・製薬に貢献できる薬学研究者・教育者を育成する」ことを目的として、徳島大学薬学部の使命である創薬研究者育成のために創設されました。創製薬科学研究

者育成コース（創製薬科学研究者育成プログラム）は、創薬研究者に必要なスキルを身につけるためのユニークな科目（創薬実践道場、学術論文作成法、英語プレゼン実践講座等）を設けており、3年生進級時に研究室配属されてから6年生で学外実務実習に出るまでの期間、卒業研究に打ち込むことが可能です。新6年制課程として育成プログラム選択が実施されてから、すでに2年が経過し、4年生・3年生が研究室において卒業研究に取り組んでおり、5年生の9月に2年半の研究成果を卒業研究発表会において発表することが予定されています。いよいよ今年度後期には、PhD-Pharmacist プログラム（こころざしプログラム：創製薬科学研究者育成コース学部4年終了後に大学院博士課程（4年）へ進学し、

博士（薬学）の学位を所得後、学部5年次に戻り薬剤師免許の取得を目指す特別選抜プログラム）の募集が開始されます。こころざしのある4年生が応募してくれることを期待しています。新入生は、2年後にコース・プログラムを選択することになりますが、1・2年生の間に様々な経験を積み多くの知識を得ることで、なりたい自分を見つけてください。



■ 空気中に浮遊しているプラスチック



分析科学分野 准教授

竹内 政樹

Takeuchi Masaki

1 950年代より、大量のプラスチック廃棄物が環境中に放出されてきました。プラスチック廃棄物は紫外線や微生物などにより断片化・分解され、その大きさが5mm未満になったものをマイクロプラスチックと呼びます。また、化粧品や洗剤、衣服の合成繊維からもマイクロプラスチックが直接放出されています。これらのマイクロプラスチックは生態系に多大な影響を及ぼす可能性が指摘されており、その実態把握は喫緊の課題となっています。近年、海洋のプラスチックゴミが社会問題となっていますが、私たちは、空気中に浮遊しているプラスチック、すなわち大気マイクロプラスチックに注目しています。

大気マイクロプラスチック研究の課題

大気マイクロプラスチックの実態を明らかにしていくうえでの課題として、そもそも分析手法が確立していな

いことや、目で見えるものだけを計測しているという点が挙げられます。前者は地域間における観測データの比較を、後者は健康リスクの評価を困難にしています。そこで私たちは、呼吸により肺の奥深くまで入り込むレベルの大気マイクロプラスチックについて、その分析方法の確立と大気中での挙動を明らかにすることを目標として研究を進めています。

大気マイクロプラスチックの分析法

大気マイクロプラスチックの主な分析法として、顕微フーリエ変換赤外分光法や顕微ラマン分光法などの分光学的手法が挙げられます。これらの手法はプラスチックの同定とともに、そのサイズ、形状、色などの情報を得ることができます。しかし、測定前にバイオエアロゾルや鉱物を除去する必要があります。これらの過程で数日を要します。一方、私たちが検討している熱分解ガスクロマトグラフィー質量分析法による測定では、プラスチックの同定とその質量濃度を得ることができます。さらに、分光学的手法のような複雑な前処理を必要としないため、短時間で測定に供せるとともに、前処理工程におけるコンタミネーションの心配もありません。

薬学部屋上で浮遊しているマイクロプラスチックをはかる

数年前より、本学薬学部教育研究棟の屋上で大気エアロゾルの分級捕集を始めました(図1右)。図1に、エア

ロゾルを捕集したフィルターの一部を600℃で瞬間的に熱分解し、分解生成物をガスクロマトグラフ/質量分析装置で分析したときのパイログラムを示します。それぞれのピークに熱分解生成物を割り当てていますが、ジオレフィン、オレフィン、アルカンの一連のピーク群から大気マイクロプラスチックとして、ポリエチレン(PE)が存在する可能性が高いと思われます。ポリスチレン(PS)が熱分解すると、スチレンのモノマー、ダイマー、トリマーが生成しますが、図1ではスチレンダイマーとスチレントリマーが検出されていることから、PSも存在する可能性が大きいといえます。また、ポリエチレンテレフタレート(PET)の特徴的な分解物である安息香酸と安息香酸ビニルがみられることから、PETも存在していると考えられます。このように、熱分解ガスクロマトグラフィー質量分析法による熱分解生成物の構成から、エアロゾル試料に含まれるプラスチックの同定が可能となってきました。現在、それぞれのプラスチックに特徴的な熱分解生成物を用いた定量法を検討しており、大気マイクロプラスチック迅速分析法の早期標準化を目指しています。

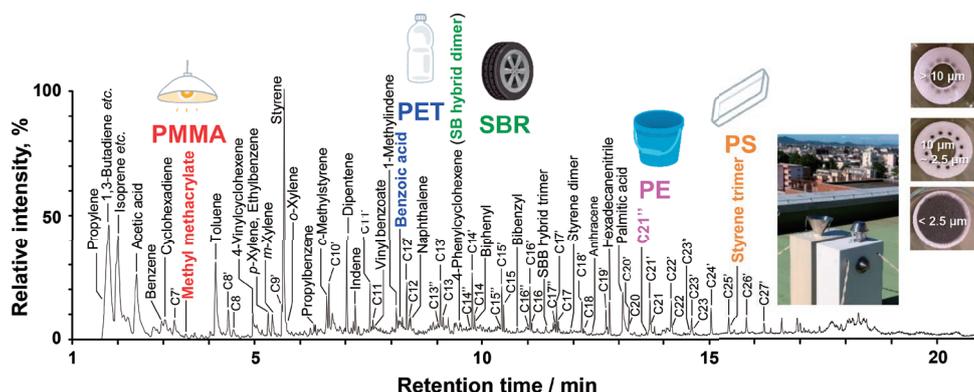


図1 熱分解ガスクロマトグラフィー質量分析法により得られたパイログラムの一例と大気エアロゾルのサンプリング

東國大学校薬学大学との学術交流



薬品製造化学分野 講師

猪熊 翼

Inokuma Tsubasa

令和5年12月18日(月)から20日(水)までの3日間、韓国ソウル特別市から北西に位置する高陽(Goyang)市にあります東國大学校薬学大学(College of Pharmacy, Dongguk University)を、衛生薬学分野小暮教授とともに訪問いたしました。同校とは、平成24年に学術交流協定を締結して以来、双方の教員が相手方大学を訪問し、直接的な交流を深めておりました。しかし、令和2年に

始まったCOVID-19のパンデミックの影響により、対面での交流がしばらく途絶えており、今回はパンデミック以後、初の対面での交流となりました。

真冬の高陽は最高気温が氷点下となることが普通

のようでしたが、幸いにして我々が訪問した3日間は比較的温暖でした。それでも、雪は降り積もるばかりか、川は完全に凍結するという徳島ではあまり見られない光景に驚愕しました。一方で講演会では、DDS研究と有機合成化学について、それぞれの専門分野に精通する多数の教授陣とのディスカッションに大いに熱く盛り上がりました。

講演後にはCertificationも発行されるなど、今回の訪問では、多くの先生方から手厚い歓迎を受けました。特にHee-Chul Ahn先生には、渡韓前の諸手続きから韓国でのナビゲートまで大変お世話になりました。東國大学校の先生方との対面での直接交流を通



写真1 講演会後の集合写真

じて、今後さらに深い絆を築いていきたいという先方の強い意思を感じました。

最後になりますが、土屋学部長を始め、訪問スケジュールの調整にご尽力いただいた佐野教授、中尾講師ならびに薬学部事務課の皆様に感謝申し上げます。



写真2 講演会後に授与されたcertification

BRIGHT研究会研究者のたまご育成委員会主催交流会2024 開催報告

医薬品機能生化学分野 助教

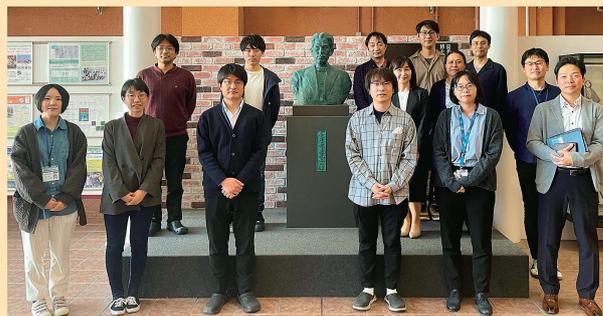
今西正樹

Imanishi Masaki

2024年1月11日(木)13時より薬学部棟の第1講義室、スタジオプラザ&インフォメーションプラザにおいて、BRIGHT研究会研究者のたまご育成委員会主催交流会2024を開催させていただきました。本交流会は「薬と社会の探訪」の講義の一環として、薬学部1年生に対して各研究室の先輩方や若手教員の先生方からポスターにて研究紹介を行っていただき、1年生に「研究」や「研究室」についてもっと知ってもらおうという、1年生と研究室員との交流の場であります。薬学部全研究室の講師・助教・特任助教の先生方に世話人として加わっていただき、ポスター前にてフランクにフリーディスカッションできる機会を設けさせていただきました。第1回

目となる今回は、全研究室から計27演題の応募をいただき、活発なディスカッションが繰り広げられました。発表者の学生さんの中から、世話人による厳正な審査により優秀賞を3名が受賞され、1年生のアンケートによる選考によりアトラクティブ賞を2名が受賞されました。本交流会を覗きに来てくださった先生方には「盛況だったですね」というお言葉をいただき、1年生のアンケートでは「研究の話を近い距離で聞くことができよかった」という内容の感想が多くみられました。1年生にとって研究発表内容は難しいものではあったかもしれませんが、難しいなりに理解しようとあれこれ「考え」、フランクに話し合えた先輩や若手教員の先生方が研究に真摯に

向き合って「考え」を披露されている背中をみて感じるころがあったのであれば、本交流会の趣旨は達成できたのではないかと思います。未筆ながら、本交流会の開催にご尽力いただきました先生方、研究発表のご協力をいただきました各研究室の先生方、優秀賞の副賞をITEXの予算からご支援いただきましたこと、フランクなディスカッションの促進のためにお菓子を助成会費からご支援いただきましたこと、心より御礼申し上げます。



写真は世話人の先生方

※ご都合により写真にお入りいただけなかった先生方もおられます。

DDS研究センター&iTEX 合同シンポジウム開催報告



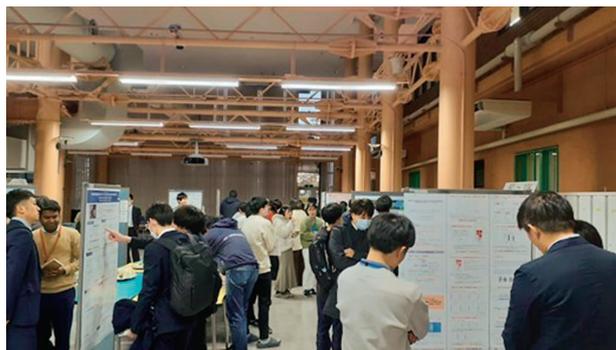
DDS 研究センター長

小暮健太郎

Kogure Kentaro

令和6年2月6日12:55から、薬学部第2講義室において徳島大学大学院医歯薬学研究部 DDS 研究センター・徳島大学研究クラスター「次世代 DDS 拠点形成」・「高度な基礎力と研究マインドをもった先導的薬剤師育成事業 (iTEX 事業)」・SDGs 推進に係る連携創出の場形成支援事業合同シンポジウムを開催しました。遠路徳島まで3名の著名な先生にお越しいただき、最先端の DDS 研究についてご

講演いただきました。長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の川上茂先生に「脂質ナノ粒子の高機能化を目的としたリポペプチドの開発と核酸・細胞医薬創出への展開」を、東京大学大学院工学系研究科材料工学専攻の宮田完二郎先生には「生体内バリアを突破するナノ医薬材料の設計指針」を、浜松医科大学光先端医学教育研究センターの清水広介先生には「免疫疾患を克服する新たな標的化 DDS 創薬」を講演していただきました。大塚製薬や大鵬薬品工業、帝國製薬など、徳島・香川の製薬企業の研究者の方も大勢聴講にいられました。3名の先生方のご講演の後、薬学部1階スタジオプラザにおいて、iTEX 支援若手教員と研究クラスター支援大学院生に



ポスター発表会の様子

よるポスター発表会を開催しました。学外から来られた企業研究者の方や学部教員・学生も参加し、非常に盛り上がったポスター発表会でした。参加者総数は、49名（学生18名、教職員13名、企業18名）でした。今年度も、多くの DDS 研究センターシンポジウムを予定していますので、ぜひご参加ください。開催情報は、DDS 研究センターホームページに掲載いたします。
(<https://www.idds.tokushima-u.ac.jp/index.html>)

令和5年度 徳島大学薬学部卒業・修了祝賀会

令和6年3月22日、薬学部実験研究棟1階スタジオプラザにて、「令和5年度徳島大学薬学部卒業・修了祝賀会」が開催されました。本祝賀会は4年ぶりの開催となりました。初めに土屋浩一郎薬学部長から挨拶があり、続いて徳島大学薬友会・久米哲也様が祝辞を述べられました。各賞授与では受賞者の名前が呼ばれ、土屋薬学部長から賞状と副賞が贈られました。その後、徳島大学薬学部助成会会長・吉田和仁様に乾杯のご発声をいただき、卒業生と薬学部教員は大学生活の思い出話に花を咲かせながら和やかな歓談の時間をすごしました。最後に小暮創製薬科学

研究者育成コース長の万歳発声とともに参加者全員で万歳三唱を行い、祝賀会は盛況のうちに無事終了いたしました。本祝賀会の開催にあたり、お力添えいただきました久米様、吉田様に教職員一同感謝申し上げます。



新任教員挨拶



医薬品情報学分野 助教

長崎 裕加

Nagasaki Yuka

令和6年4月1日付けで、医薬品情報学分野（佐藤陽一教授）の助教に着任いたしました長崎裕加です。私は、岐阜薬科大学卒業後、徳島大学ゲノム機能研究センター・遺伝情報分野で糖尿病のゲノム解析に従事して医科学教育部修士課程に進学し、その後、（独）産業技術総合研究所健康工学研究センター・バイオマーカー解析グループに勤務してマイクロ化学チップの生物学実験への応用法の展開に従事するとともに、社会人大学院生として薬科学研究部博士後期課程に進学して博士（薬学）の学位を取得しました。学位取得後は、鈴鹿医療科学大学薬学部にて6年制薬学部での研究・

教育に携わり、続いて徳島文理大学香川薬学部・医療薬学講座にて勤務し、OSCE・CBTや実務実習を含む臨床教育に携わる一方で、糖尿病のゲノム解析研究を続けました。四国こどもとおとなの医療センター・臨床研究部に異動した後は、疾患の遺伝子診断業務と並行して、それに関係する遺伝子解析研究の展開を推進しておりました。

薬学部では、研究・教育ともに重要となりますので、現在の徳島大学のニーズに沿った研究・教育ができるよう尽力してまいりたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



衛生薬学分野 助教

米田 晋太郎

Yoneda Shintaro

令和6年4月1日付けで、衛生薬学分野（小暮健太郎教授）の助教に着任いたしました米田晋太郎（よねだ しんたろう）と申します。私は平成28年に徳島大学薬学部に入學し、令和1年度から本学衛生薬学分野に配属され、令和4年に博士前期課程を修了・博士後期課程に進学いたしました。本年度には薬剤師免許を取得し、ご縁があり本学衛生薬学分野の助教として研究者としてのキャリアをスタートさせていただき運びとなりました。現在に至るまで、ナノ粒子を用いた疾患治療研究、特に脳虚血／再灌流障害治療法の開発に関する研究に従事し、現在もドラッグデリバリーシステム

（DDS）研究に携わっております。本学では、自身が4年制学部・博士前期課程を修了し、また博士後期課程において実務時実習・国家試験等の6年制学生と同一の学修を行った経験を生かし、教育・研究に尽力したいと考えております。まだまだ未熟ではございますが、徳島大学薬学部の一員として、自身も成長しながら学生の成長の力添えができるよう精進したいと考えております。微力ではございますが、本学の発展に少しでも貢献できるよう尽力する所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

退任教員挨拶



総合薬学研究推進学分野 准教授

植野 哲

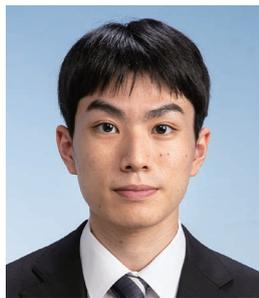
Ueno Satoru

私は、2024年3月31日をもって、無事定年退職を迎えることになりました。1985年8月に薬品製造工学研究室に助手として採用されて以来、生体膜に対する多様な薬物の作用の解明をテーマに研究を行ってきました。初期の研究では、膜作用性薬物の生体膜への影響を探求し、その後はカチオン性ポリアミノ酸の生体膜への影響に焦点を当てた研究を行いました。教育活動としては、本学部生に対する物理系の講義のみならず歯学部や医学部栄養学科に属する学生の基礎

化学を長期に渡り担当してまいりました。また、コロナ流行前までは大塚製薬、帝国製薬を中心とした工場や研究所への見学等に関与してまいりました。トータル約38年間の教員生活において、非常に良い環境で仕事ことができましたのも、共同研究者の皆さんや一緒に仕事をした学生さん、そして事務の方々のおかげだと思っております。ここに厚くお礼を申し上げます。最後に、皆様の益々のご活躍と徳島大学薬学部の更なる飛躍を祈念して、退職の挨拶とさせていただきます。

学生の活躍

博士後期課程進学を考えている方へ



生物有機化学分野 博士後期課程1年

野木 悠平

Nogi Yuhei

日 本学術振興会特別研究員（DC1）の採用にあたり、ご指導頂きました南川先生、田良島先生に深く感謝申し上げます。さて薬学部だより執筆にあたり、私が博士後期課程への進学を決めた理由を振り返ってみました。様々な理由がありますが、主な理由は「現在取り組んでいる研究が面白く、続けたいと思ったこと」と「将来、研究者として活躍するために、研究者としての基礎を身につけたいと思ったこと」です。博士後期課程は、様々な経験を通じて成長することができる場です。本研究員の申請書類の作成も大変でしたが、誰が読んでも理解できる研究計画や研究の魅力を文章化す

る力が少し身についたと感じます。また、目標とする研究者像を明確にすることができました。博士後期課程進学に不安を感じる方もいらっしゃるかと思います。私も正直なところ、進学を決定した時には漠然とした不安がありました。しかし、今では研究の難しさや大変さを実感しつつも、充実した日々を送ることができています。まだまだ未熟ではありますが、これを機に、さらに精進していきたいと思います。最後になりますが研究を行うにあたりご指導いただいております野間口雅子教授、駒貴明准教授に深く感謝いたします。

薬学軟式テニス



薬学部薬学科3年

渡部 淳也

Watanabe Junya

私 たち薬学軟式テニス部は現在男子27名、女子29名が所属しており、毎週金曜日の放課後と土曜日の週2日間活動しています。経験者も初心者もソフトテニスを通じて楽しく活動しております。

新型コロナウイルスによる規制が緩和され、コロナ禍以前と同様に大会に参加することができるようになってきました。昨年度の関西薬学生ソフトテニス大会では女子が団体戦で準優勝するなど、練習の成果が表れているのを実感するとともに今年度の大会に向けてより一層活動に力を入れたいと感じているところです。

大会等への参加と同様に、部内でのイベントもコロナ禍以前のように開催できるようになりました。歯学部さんとの練習試合を通じた他学部との交流、OB戦や追い出し戦を通じた先輩方との交流など、多くの交流がなされとても有意義な部活動へと戻ってきているように感じます。

最後になりますが、薬学軟式テニス部の活動を支援してくださっている方、いつもありがとうございます。これからもこの部活をより一層活気づけてまいりますので暖かく見守っていただけると幸いです。

薬学部年間行事予定

令和6年8月～令和7年3月

令和6年

8月3日(土)～31日(土)	夏季休業
8月6日(火)	オープンキャンパス
10月1日(火)	後期授業開始
10月26日(土)～27日(日)	蔵本祭
11月2日(土)	開学記念日
12月3日(火)	薬学共用試験 CBT
12月14日(土)	薬学共用試験 OSCE

令和7年

1月18日(土)～19日(日)	大学入学共通テスト
2月25日(火)～26日(水)	一般入試(前期日程)
3月12日(水)	一般入試(後期日程)
3月25日(火)	卒業式・修了式
3月25日(火)～31日(月)	学年末休業

薬学部関連ニュース



教員の異動

令和6年3月31日付退職	総合薬学研究推進学分野	植野 哲	准教授
令和6年3月31日付退職	衛生薬学分野	大園 瑞音	助教
令和6年4月1日付採用	医薬品情報学分野	長崎 裕加	助教
令和6年4月1日付採用	衛生薬学分野	米田 晋太郎	助教
令和6年5月1日付昇任	臨床薬学実務教育学分野	佐藤 智恵美	准教授

学会賞等受賞

【教員の受賞】

■企業冠賞 東ソー・環境エネルギー賞

受賞者：難波 康祐
 受賞年月日：令和6年2月14日
 表彰団体名：公益財団法人有機合成化学協会
 受賞内容：環境問題に貢献する天然物合成

■康楽賞

受賞者：難波 康祐
 受賞年月日：令和6年2月16日
 表彰団体名：公益財団法人康楽会

■日本薬学会第39年会 最優秀発表者賞

受賞者：高田 春風
 受賞年月日：令和6年5月25日
 表彰団体名：公益財団法人日本薬学会
 受賞内容：筋組織中の mRNA 封入 PEG 修飾脂質ナノ粒子のタンパク質翻訳に抗 PEG 抗体が及ぼす影響

【学生の受賞】（学年は受賞時）

※注釈：氏名の右横の（ ）内のアルファベットは、B=学部生、M=博士前期課程、D=博士後期課程・博士課程を指します。

■優秀ポスター賞

受賞者：木下 京輔 (B5)
 受賞年月日：令和5年11月24日
 表彰団体名：第59回フローインジェクション分析講演会
 受賞内容：徳島市における大気マイクロプラスチックの動態

■徳島大学学生表彰

受賞者：
 瀬戸田 紋李 (B4)、阿部 舜史 (B5)、
 木下 京輔 (B5)、山本 璃子 (B6)、
 中 恵 (B6)、山口 美穂 (M1)、
 篠崎 千穂 (M1)、山本 舜人 (M2)、
 川田 航大 (M2)、林 隼矢 (M2)、
 左東 大輝 (D2)、中村 天太 (D2)、
 福田 翔一郎 (D2)、高田 春風 (D4)

受賞年月日：令和6年3月11日
 表彰団体名：徳島大学

■学部長表彰

<長井賞>

受賞者：
 小笠 萌香 (B4)、板倉 智史 (B6)

<語学マイレージプログラム>

受賞者：
 藤井 玲緒 (B4)、松本 仁志 (B4)、
 橋本 彩伽 (B4)、福本 真子 (B4)、
 谷 彩音 (B4)、南園 友葉 (B4)、
 山本 璃子 (B6)、馬場 野瑛香 (B6)、
 東山 晃子 (B6)、高見 真理子 (B6)、
 原田 真優 (B6)

受賞年月日：令和6年3月22日
 表彰団体名：徳島大学薬学部

■学部長特別表彰

<実務実習 成果発表 優秀ポスター賞>

受賞者：
 板倉 智史 (B6)、内田 和志 (B6)、
 大川 亜衣梨 (B6)、多田 安里 (B6)、
 安田 美紀 (B6)、若野 奏海 (B6)

受賞年月日：令和6年3月22日
 表彰団体名：徳島大学薬学部

■日本薬学会 中国四国支部 学生発表奨励賞

受賞者：
 稲月 勇斗 (B4)、山本 璃子 (B6)、
 野木 悠平 (M2)、茅野 公佳 (M2)、
 村井 あきほ (M2)、川田 航大 (M2)

受賞年月日：令和6年3月22日
 表彰団体名：日本薬学会中国四国支部

■日本薬学会第144年会 学生優秀発表賞（口頭発表の部）

◎受賞者：日高 萌実 (B4)
 受賞内容：グローバルプロテオミクスによる妊娠マウスの脳微小血管において発現変動するタンパク質の同定

◎受賞者：出合 祐梨 (B5)
 受賞内容：脾臓辺縁帯B細胞を標的としたがんペプチドワクチンと化学療法剤の併用による抗腫瘍効果誘導に関する検討

◎受賞者：福本 真子 (M1)
 受賞内容：細菌由来ナノセルロースを3D培養基材として用いて調製したエクソソームの有用性検討；エクソソームの分泌特性とタンパク発現の評価

◎受賞者：三原 菜那 (M2)
 受賞内容：ホスホフリダート交換反応を基盤とするDNA化学合成の検討

◎受賞者：野木 悠平 (D1)
 受賞内容：抗SARS-CoV-2活性を指標とした4'-チオ修飾 siRNA の最適化

◎受賞者：中村 天太 (D3)
 受賞内容：Calyculphylline G の全合成研究

受賞年月日：令和6年4月23日
 表彰団体名：日本薬学会

■日本薬学会第144年会 学生優秀発表賞（ポスター発表の部）

受賞者：安田 美紀 (B6)
 受賞年月日：令和6年4月23日
 表彰団体名：日本薬学会
 受賞内容：プラスマローゲンによるBACE1発現抑制機構の解明

■日本薬学会第39年会 SNPEE2024優秀発表者賞

受賞者：松尾アモリムクリスティーナ葉々(D3)
 受賞年月日：令和6年5月23日
 表彰団体名：公益財団法人日本薬学会
 受賞内容：白金製剤シスプラチンのタンパク結合形が副作用と抗腫瘍効果に与える影響の評価

■日本薬学会永井財団 大学院学生スカラシップ

◎受賞者：橋本 彩伽 (M1)
 受賞内容：ヒト血液脳関門・くも膜関門におけるcGAS-STING経路が関わる自然免疫応答機構の役割

◎受賞者：松尾アモリムクリスティーナ葉々(D3)
 受賞内容：白金製剤シスプラチンのタンパク結合形が副作用と抗腫瘍効果に与える影響の評価

受賞年月日：令和6年5月24日
 表彰団体名：公益財団法人日本薬学会

■第15回 日本生物物理学会 中国四国支部大会 若手発表優秀賞

◎受賞者：東條 祐真 (M1)
 受賞内容：Identification of catalytic site of malate-quinone oxidoreductase

◎受賞者：藤井 玲緒 (M1)
 受賞内容：Towards the construction of mitochondrial ADP/ATP carrier forming a stable substrate-complex

受賞年月日：令和6年5月26日
 表彰団体名：日本生物物理学会

学部等支援基金(薬学部) ご寄附のお願い

薬学部は、職種にかかわらず多様な薬学領域の様々な分野に対応可能な人材「インタラクティブ YAKUGAKUJIN」育成を教育理念とし、薬学の新たな未来の創造に貢献するため、教育研究活動を推進しています。このような取組を発展させるため、薬学部・薬学研究科における教育研究、国際交流及び社会貢献等の様々な活動に基金を活用させていただく予定です。皆さまからのご理

解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

●お申込み方法等、詳しくはホームページをご覧ください。



<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/foundation/>

発行：徳島大学
 編集：薬学部広報委員会
 広報委員：山崎哲男、藤野裕道、竹内政樹、稲垣 舞

URL：https://www.tokushima-u.ac.jp/ph/
 〒770-8505 徳島市庄町1丁目78-1
 徳島大学蔵本事務部薬学部事務課総務係
 E-mail：isysoumu3k@tokushima-u.ac.jp

●皆様のご意見、ご要望、エッセイ、写真、絵画、漫画などご投稿を歓迎します。どしどしご応募くださいますようお願いいたします。次回の発行は、令和6年12月頃を予定しております。